

E-17 家事労働の共同化に関する研究—コインシステムによる洗濯方式について—  
京都府大 家政 町田玲子

目的 先に報告した「市街地高層住宅の洗濯物乾燥の問題」と関連させて、セルフサービスのコインシステムによる洗濯方式(乾燥も含む)についての検討を行う。すなわち、①そのシステムを現在利用していない居住者に対し、そのシステムの採用をどう思うか、②そのシステムを現在利用している人達にその利用状況を、③以前、そのシステムを採用していたが、継続しなかった住宅地について、その背景を、各々の立場から検討し、そのシステムが、現在、成立している要因は、何か、またそのシステムを一般化させる上でどのような課題があるか、等について明らかにしたい。

方法 ①に関しては、大阪市内の公園通の市街地高層住宅(森の宮、住吉)居住の主婦、計500人に対してのアンケート調査、②に関しては、東京、厚労省にあるコインシステムによる共同洗濯所利用者に対するアンケート調査、③に関しては、東京、東京都国土地の例をとりあげ、その関係者に関する聞き取り調査を行った。調査年月は、①は1969年11月、②は、1971年7月、③は、1970年3月である。

結果 洗濯物乾燥に関し、多くの問題を感じている居住者は、コインシステムの採用を「のぞましい」と多くの人が答え、またそれは、主婦の年令が若いほど、層が高いほど、高率を占めている。現在、コインシステムが成立し、継続している主要な原因として、①共同洗濯所の立地状況、②利用者の年令、職業、経済性、等とかがあげられる。今後の方向として、乾燥機の共同化が考えられるが、その使用料、住戸からの距離など、問題があると思われる。